

# 主任コラム4月号

主任 澤井 良子

ご入園、ご進級おめでとうございます。0・1歳児14名、2歳児2名、3歳児8名の新しいお友達を迎え、128名で令和5年度がスタートしました。

幼児棟に進級した子ども達には、いろんな場面で小さい子に生活のルールなどを教えてあげる姿がみられます。それは今まで自分達が上の子に教えてもらっていたことの伝承だと思います。また、コーナー遊びでは好きな遊びを選び、活動選択（自己決定をすること）で年齢の枠を超えて自分の発達にあった場所や友達を見つけることもできます。そして、給食の場面ではセミバイキングを通して自分の食べられる量を伝えます。そのセミバイキングの目的の一つは「自分の意見を1日1回は伝える」という事です。例えば子どもが「少し」と言ったら、よく食べておかわりする子だとしてもその意見を受け止めてあげることや、反対に食べられない子が「いっぱい」と言ったらそれを信じてあげることが大切です。「いっぱい」と言っても残してしまう事や、おかわりしても食べきれないことだってあります。それでもいいのです。大人の私たちであってもそのような経験があると思います。それを大人の判断でなく、子どもの思いを受け止め信じてあげること、自分の気持ちを伝えるという事や、次に食べる時の量を自分で伝えられるのです。その経験を保育園生活の中でたくさんして欲しいと思います。そして、その子ども達の思いを周りの大人も丸ごと受け止めていくことが大事だと思っています。

ながさわ保育園では「見守る保育」をしています。見守るの『見る』は先回りして子どもの欲求を察知することではなく、子どもの発達を見極めることと、子どもの行動を見てどの部分の発達かの見通しを立てることであります。また『守る』とは、自分でしようとしている時は傍で見守り、子どもが助けて欲しい・やって欲しいと求めてきた時には、それがたとえ自分でできることであっても受け止めることで、いざという時にいつでも守ってあげるというサインを出しながら関わることです。その関わりの中で、自分の気持ちを受け止めてもらい、気持ちも満たされた事で相手に気持ちを伝えることや、周りの人の思いに気付くことができるのだと私は思います。

新入園児の子達は、家庭から大きな子ども集団の中に入っていきます。最初は泣いたり、お家の方から離れられなかったりするかと思いますが。進級した子も不安なこともあると思います。泣いたりして当たり前です。たくさんの感情を受け止めながら、子ども達にも、保護者の方にも安心して頂けるように、関わりを大切に保育させていただきたいと思っています。どんな小さな事でも、心配な事などありましたらお声掛けください。職員一同、保護者の方と一緒にお子さんの成長を喜び共感し合えたらと思っています。今年一年、よろしくお願い致します。

子どもの姿 「保育園たのしいよ！」

